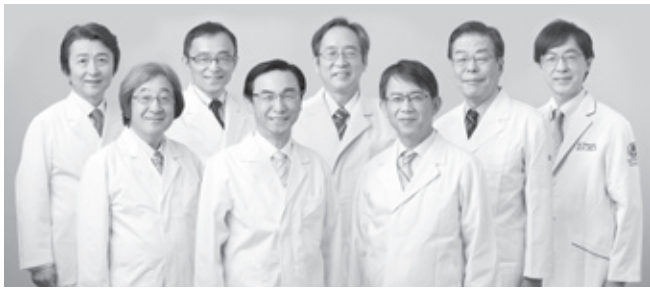


「こんなときは神経内科に行こう!」

パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 大阪

3月8日(日) 10:00~12:00
グランキューブ大阪

50~60歳代で発症することが多く、国内には約15万~18万人の患者さんがいると推定されているパーキンソン病は、ほかの脳の病気とよく似た症状を示すことがあり、なかなか診断がつかないケースも見受けられます。このシンポジウムでは、パーキンソン病をはじめとする脳や神経の病気について、その専門家である神経内科のお医者さんが、わかりやすく解説します。



「神経内科フォーラム」ホームページに登場するドクターたち(写真左より)
獨協医科大学 平田幸一教授、順天堂大学 服部信孝教授、福島県立医科大学 宇川義一教授、国立精神・神経医療センター病院 水澤英洋院長、九州大学 吉良潤一教授、京都大学 高橋良輔教授、国立循環器病研究センター 峰松一夫副院長、金沢大学 山田正仁教授。
「神経内科についてもっと知りたい!」という方は、ぜひインターネットで「神経内科フォーラム」と検索してホームページをご覧ください。

神経内科は患者さんをていねいに診て、神経や脳の病気を見つけ、治療します。

神経内科医は「全身を診るお医者さん」

全身に張り巡らされた神経は、脳を使って思い出したり考えたりする認知機能から、筋肉を使って歩いたり走ったりする運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚などの感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化・循環・発汗など、意識せずに体が生命活動を続けるための自律神経にいたるまで、体全体がうまく調和し、機能するために休みなく働いています。

神経内科医は、全身をコントロールする神経の不調を的確に診断する「全身を診るお医者さん」として、とても貴重な存在です。

頭痛から神経難病まで最善の治療法を提示

神経内科では、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的患者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病までを扱います。そのためにはさまざまな検査を行って、患者さんを細かく診察し、見えない病気の実態を把握し、その原因を突き止め、患者さん一人一人の症状と生活に合った最善の治療法を提示するのが神経内科医です。

患者さんをていねいに細かく診察

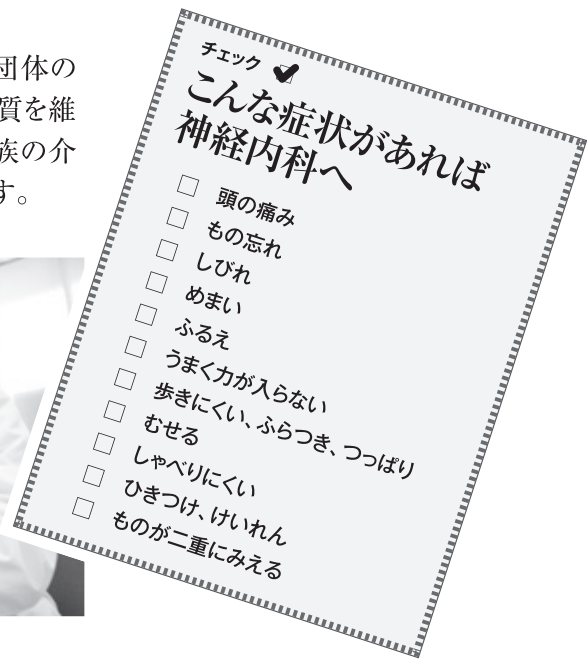
神経内科が行う特徴的な診察法として、

「神経学的検査」があります。これは、患者さんの意識や精神の状態、言語、脳神経、運動機能、感覚機能、反射、協調運動、髄膜刺激徴候、姿勢、起立歩行などのようすを総合的に診断するもので、患者さんの全身を神経学的な分析に基づいて観察することで、病気とその原因を見つけます。

患者さんの生活の質を維持・向上するために

神経内科では、このような病気の診断や治療に留まらず、治療が難しい患者さんやそのご家族と寄り添いながら、生活相談や痛みの緩和、リハビリの指示、福祉資源活用の

ための診断書等の作成、難病支援団体の紹介などを行い、患者さんの生活の質を維持・向上するためのサポートと、ご家族の介護負担の軽減のために貢献しています。



セミナー講師の先生にインタビュー

3月8日に開催される「こんなときは神経内科に行こう! パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 大阪」講師の先生方にお話を聞きました。

神経内科医の使命について

京都大学大学院医学研究科臨床神経学・教授
高橋 良輔先生

神経内科医は、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的患者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病まで、神経にかかわる疾患を発見・治療する専門家です。そのため取り扱う病気の種類も多く、難病と呼ばれて、原因がわからず、治療も難しい病気も多いため、診断が難しいケースも少なくありません。

しかし私たち神経内科医は、患者さんから過去の病歴や職歴、生活習慣などを聞き、さらに患者さんの脳の働きや筋肉の動き、視覚、聴覚、嗅覚、触覚など、全身のどこかに少しでも異常が見られないかどうかを細かく観察します。

さらに豊富な診察経験と最新の研究知見を考慮しながらさまざまな検査を行い、総合的に患者さんを診て、見えない病気の実態を把握し、その原因を突き止め、患者さん一人一人の症状とライフスタイルに合った最善の治療法を見つけ、患者さんの生活の質の維持・向上をサポートすることが神経内科医の使命です。セミナーでは、3人の神経内科医が皆様の質問にお答えするコーナーもありますのでご期待ください。



パーキンソン病とその診断法について

和歌山県立医科大学・神経内科学・教授
伊東 秀文先生

パーキンソン病は、脳が出す運動の指令が筋肉にうまく伝わらず、「静止しているのに手足がふるえる(振戦)」 「体・筋肉がこわばる(筋固縮)」 「動作の緩慢・減少(無動)」 「体のバランス力の低下(姿勢反射障害)」 など、パーキンソン病に特有の4大症状が現れることが多い病気です。

かつては難病と言われたパーキンソン病ですが、研究が進み、早期に発見して治療をスタートすれば、運動機能の著しい低下を抑えることもできます。

神経内科医はパーキンソン病や脳・神経の病気を診断・治療する専門家です。4大症状のうち1つでも気になる症状が認められたら、早めに神経内科を受診しましょう。

セミナーでは患者さんとのエピソードなども交えて、わかりやすくお話します。ぜひご参加ください。



パーキンソン病の治療について

大阪大学大学院医学系研究科・神経内科学・教授
望月 秀樹先生

かつては原因不明の難病と呼ばれたパーキンソン病ですが、世界中の医師や研究者の努力によって、現在ではたくさんの治療法や治療薬が開発されています。

「体が思うように動かない」「元通りにはなれない」「治らない」...と落ち込んだり、社会と距離を置いてしまったりせずに、「仕事を続けたい」「趣味を続けたい」「家族と笑顔で暮らしたい」「新しいことにチャレンジしたい」などの希望を抱き、前向きに生きることがパーキンソン病治療の基盤となります。

神経内科では、患者さんの希望を実現できるように最善の治療法を選んで、充実した人生を歩んで行けるようにサポートしています。

セミナーで皆さんとお会いし、パーキンソン病と神経内科についてお話してできることを楽しみにしております。



「こんなときは神経内科に行こう!」 パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 大阪

参加費無料!
先着380名様

講師: 京都大学大学院医学研究科臨床神経学・教授 高橋良輔先生
和歌山県立医科大学・神経内科学・教授 伊東秀文先生
大阪大学大学院医学系研究科・神経内科学・教授 望月秀樹先生

日時: 3月8日(日) 10:00~12:00

会場: 大阪府立国際会議場
(グランキューブ大阪) 10階 会議室1004-7
(京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」2番出口すぐ)

共催: 神経内科フォーラム
グラクソ・スミスクライン株式会社
後援: 一般社団法人 日本神経学会

プログラム

- 10:00~10:25 神経内科の紹介(座長:高橋良輔先生)
- 10:25~10:50 パーキンソン病とその診断法について(伊東秀文先生)
- 11:00~11:25 パーキンソン病の治療について(望月秀樹先生)
- 11:30~12:00 パーキンソン病患者さんに寄り添う神経内科医(事前質問に答えるコーナー)

◆申し込み方法

お名前・ご住所・お電話番号・年齢・性別をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。先着順で参加証を郵送しますのでお間違いないようご記入ください。
またパーキンソン病や脳・神経の病気についてのご質問があれば、セミナーで活用させていただきますのでご記入ください。(時間の都合上、事務局で回答する質問を選ばせていただきます。全ての質問にご回答できるわけではない旨、ご了承ください)

ファックスの場合 FAX 03-5550-6550

郵 送 の 場 合 〒104-8176 東京都中央区銀座7-13-20
(株)日本経済社内

「こんなときは神経内科に行こう!大阪セミナー」係宛

ホームページ:「神経内科フォーラム」で検索してください。

<http://www.neurology-forum.org/>

◆お問い合わせ先 TEL 03-5550-6263(平日10:00~16:00) 【締め切り】2月28日必着(先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>

